

e-dream-s 通信

No. 89 発行：2008年6月15日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

今月号は6月7、8日に行なわれた理事会で話し合われたことをお伝えします。ECAP2008、教育支援事業 CamTESOL2009 へ向けての提案、など今後の e-dream-s の方向性が示されています。山田理事からのサンフランシスコ便りは Skype 体験です。では、どうぞお楽しみください。

目 次

1. 新事業年度を迎えて	中川 房代	p. 2
2. カンボジアの明治維新	辻 荘一	p. 4
3. ラジオの言葉遣い：大の字考	井川 好二	p. 6
4. 教育支援事業 — CamTESOL 2009 に向けて	塚本 美紀	p. 11
5. ECAP'08 in Korea 追加募集	岡崎 節子	p. 13
6. 縮まる距離	岡田 かおる	p. 15
7. 現代社会の三種の神器	塚本 美紀	p. 16
8. <サンフランシスコ便り 9 > 日本の高校生にサンフランシスコを伝える Skype 体験	山田 昌子	p. 17



第28回理事会の様子と夕食風景
(撮影：藤澤俊之氏)

新事業年度を迎えて

中 川 房 代

6月7日～8日、第28回理事会を大阪で開催した。今号の通信にも、各担当者や参加者からの理事会報告が載っているので、しっかり読んで欲しいと思う。

毎年この時期5月末～6月初めに行う理事会は、年度替わりの理事会として、今年度の事業総括や収支決算の報告と次年度の方針を論議している。今回の理事会では、「ECAP」と「教育支援事業（カンボジアでの調査）」を中心に話をした。

ECAPは、2003年夏から今夏で6回目を数える。第1回の2003年は、日韓の英語教師が、相互文化理解のためのテキストを作成した。その後、テーマを英語教育に絞って論議、日本での開催、NST(Native Speaking Teacher)の参加、日本の英語教師の代表として韓国の英語教育の大会で発表、昨年は日本の中学生を対象にした日韓NSTのティームティーチングなど、回を重ねる度にECAPは工夫と進化を続けてきた。

今夏は、昨年の「ECAP 2007 東京」での成功を受けて、ほぼ同様の内容を韓国で行うことになっている。1月の実行委員会発足、5月の実行委員（岡崎・藤本さん）の打ち合わせのための訪韓、現在、日本側参加者の募集を行っている段階である。実行委員会から報告にもあったように、今回は韓国の先生の提案から、English Villageというロケーションで、ソウルの中学1年生の1週間の英語研修のスケジュール中で行われることになった。ECAPのプログラムが授業中心になること、また今年から始まった小中学生対象の英語研修や同じ施設内で実施されている小学校の先生対象の英語研修など、最新の韓国の英語事情にも直に触れることができる絶好の機会となると思う。今後は、授業内容を検討していくことが重要課題となる。「ECAP 2008」の成功を皆で支えていきましょう。

「教育支援事業／カンボジア CamTESOL ツアー」についても、今年2月の大会参加に引き続き、2009年も参加者を募りツアーを実施する予定である。今年のツアーで知り合いになった英会話学校の先生が、来年1月に来日し、カンボジアの教育について語ってくださることになっている。今後もカンボジアとのコンタクトを続け、教育支援の方向を探っていきたい。その準備のために、8月に「調査ツアー（仮）」を実施する予定だ。（詳細は後日）

理事会では、他に、「e-dream-s 通信」をブログ配信してみたらどうかという提案もあった。2月のCamTESOL ツアーでは、リアルタイムで現地からレポート、コメントを交流する場としてブログを開設し、大変好評であった。e-dream-s 通信のブログでは、執筆者へのコメントや内容について、皆で交流できたらいいのでは、という意見があった。今後検討していきたい。

さあ、8月に向け、ECAP、教育支援／カンボジアの2本立てで、頑張っていきましょう！

<理事会で論議し、可決された議案>

(1) 議案 1 : 2007 年度 (2007 年 6 月 1 日から 2008 年 5 月 31 日まで) 事業報告

承認の件 :

- (a) 全体総括
- (b) 「ECAP 2007」報告
- (c) 「ECAP 2008」中間報告
- (d) 助成金 (ECAP 2007・ECAP 2008) 報告
- (e) 教育支援事業 / 「CamTESOL カンボジアツアー2008」報告
- (f) e-dream-s ホームページ
- (g) e-dream-s 通信

(2) 議案 2 : 2007 年度収支決算の報告

(3) 議案 3 : 2008 年度 (2008 年 6 月 1 日から 2009 年 5 月 31 日まで) 事業方針について

- (i) 全体方針
- (j) 「ECAP 2008」今後の方針
- (k) フォーラム (ACROSS 大阪支部で実施) 方針
- (l) 教育支援事業 / 「CamTESOL カンボジアツアー2009」方針
- (m) 2008 年度収支予算

カンボジアの明治維新

辻 莊一

先日行われたイー・ドリームズの理事会では、CamTesol でのECAP2007 に関する発表の成功を受けて、今後カンボジアとの結びつきを強めて行くことを総会で提案することになりました。しかし私自身にとってカンボジアはまだ未踏の地で、知識も貧弱です。そこでWikipediaを参考にしながら、カンボジアの歴史を簡単に纏めてみました。

カンボジアの近代までの歴史をごく大雑把に見ると、繁栄した古代、周辺国家の侵略によって弱体化し混乱した中世・近世を経て、仏領インドシナに編入され植民地時代となった近代へと続きます。その後ベトナム戦争の間は、親米派のロン・ノル政権となり、アメリカ撤退後はクメール・ルーージュが政権を取り、200 万人とも言われる大量虐殺が行われます。1979 年以降はベトナムの干渉と国内の混乱が続きますが、1992 年にとうとう統一政権カンボジア王国が誕生し、平和と繁栄の時代に入ろうとしているところですよ。もう少し詳しく、見てみましょう。

まず古代。カンボジアの歴史は6 世紀に始まります。9 世紀から12 世紀頃まで大いに繁栄し、この頃アンコール・ワットも建設されました。カンボジアの黄金自体といっても良いでしょう。

しかし中世から近世は、周辺国家（シャム・タイなど）の干渉が続き、カンボジアは弱体化し、首都アンコールも放棄してしまいます。この他国の干渉・侵略による混乱は18 世紀まで続きます。

近代になり、帝国主義の時代を迎え、フランスの支配を受け、仏領インドシナの一部となります。日本軍の侵攻後、独立宣言、再びフランスの保護下に戻った後、カンボジア王国として独立を果たします。

しかし、1959 年にベトナム戦争が始まり、

1 世紀	ほぼ現在のカンボジアの位置に扶南（フナン）という王国があった。
6 世紀	真臘（しんろう、チェンラ）が勃興、扶南を滅ぼす。カンボジア国家の起源。
8 世紀	ジャワ王国のシャイレンドラ朝支配下に入る。
9 世紀	ジャヤーヴァルマン 2 世即位、ジャワからの解放を宣言。アンコール王朝（クメール王朝）の始まり。
12 世紀	アンコール・ワット建設。

13 世紀	元の侵攻。後半から、アユタヤ王朝の侵攻開始。
1431 年	首都アンコールを放棄。翌年シャム族が首都を占領。その後、首都は転々。現在のプノンペンのあるチャドモックに遷都。
17 世紀～18 世紀	シャムやベトナムの侵略や干渉が続く。国内は混乱。

19 世紀	フランスの保護国になる。
1887 年	仏領インドシナに編入。
1940 年	日本軍インドシナに侵攻。
1945 年	3 月ノロドム・シハヌーク（シアヌーク）王カンボジアの独立を宣言。
1946 年	再びフランスの保護下に戻る。
1953 年	カンボジア王国として独立。

1970年にクーデターにより親米のロン・ノル政権が誕生します。1973年のアメリカ撤退後は弱体化し、1976年クメール・ルージュが首都プノンペンに入城し国名を民主カンプチアに改称します。以後200万人を超えともいわれる虐殺・粛清が行われます。1979年には、ベトナム軍が介入し内戦状態となり、1988年まで混乱が続きます。

1970年 親米のロン・ノルがシハヌークの外遊中にクーデターを決行し、シハヌーク派を追放、クメール共和国の樹立を宣言。

1973年 アメリカがベトナムから完全撤退。

1975年 ロン・ノル、ハワイに亡命。

1976年 クメール・ルージュが首都プノンペンに入城。国名を民主カンプチアに改称。以後200万人を超えともいわれる虐殺・粛清。

1979年 ベトナム軍がプノンペンを攻略。親ベトナムのカンプチア人民共和国（書記長ヘン・サムリン）が樹立。

1982年 内戦状態に。ベトナムの介入続く。

1988年 ベトナム軍撤退。

1991年のカンボジア和平パリ協定により、1992年23年ぶりの統一政権が生まれ、1999年には東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟し、ようやく安定と繁栄の時代を迎えようとしています。

1991年 カンボジア和平パリ協定。"国際連合カンボジア暫定統治機構（UNTAC）"の設置。内戦の終結。

1992年 統一政権カンボジア王国誕生。

1993年 UNTACの暫定統治終了。

1999年 東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟。

カンボジアはまだまだ貧しく、様々な問題を抱えています。カンボジアの未来のために働こうとしている若い人々がたくさんいるようです。CamTesol参加者の話を聞くと、ちょっと明治維新の時の若者の意気込みのような印象を受けました。これからイー・ドリームズはCamTesolを通じてカンボジアと関わりを強めて行きます。ECAPで培った韓国との絆も活かしながら、カンボジアを良くするために希望を持って働いている人々と連携して何かを成し遂げられる日も近いかもしれません。

ラジオの言葉遣い：大の字考

井川 好二

車で通勤していると、ラジオを聞く機会が多くあって、アナウンサーの言葉遣いが妙に気になることがある。これはなにも車に乗っている時に限った話ではないとは思いますが、今の生活ではラジオを聞くのは、運転中くらいしかないのも事実。

それに、運転をしている時は、耳からの Input に、しっかり意識が働くものである。眼は前方を注視し、意識は常に覚醒しているので、聞こえてくる音楽や人の声に、耳もより敏感に反応するのだろう。尤も、これが疲れの原因であることは明らかなのだが、その話はここでは置く。



運転中は、ラジオをつけ、ニュースや天気予報、交通情報などを、こまめにチェックするようにしている。しかし、その際、アナウンサーの音声表現が一度気になりだすと、同じ言葉遣いに何度も気がついて、その都度その都度、意識が引っかかってしまう。それかあらぬか、そのアナウンサーの別の表現まで気になり出して、どうしてそうなるのだろうと、つつい考え込んでしまう。と云って、私がノイローゼ気味でないことは、はっきりしているのだ。

発音やイントネーションなどの音声表現の要素は、新聞や雑誌、インターネットなどのメディアで、活字を眼で追っている時には気づくことはない。ラジオのように耳からの Input だと、その音声表現の一部が、何とも奇異に感じられて、文字通り、「耳に残る」場合が多いのである。

尤も、ラジオの言葉遣いを考えることは、長時間の車通勤の、退屈を紛らわす手段の一つであるのだが、この紙面を借りて、日頃の疑問のいくつかと、私なりの考えを公開し、読者諸氏のご高説、ご批判を待つことにしたい。

もちろん、NHK や民放の各ラジオ局に直接問い合わせてみれば、それなりに回答が得られるのかも

しれないが、多忙にしてその時間が取れないのが残念至極、とは、ほんの言い訳。専ら私の怠惰な性格の所為とは、云わずもがな。

それで、数あるラジオの言葉遣いの気になる点から、今回は、漢字の「大」を含んだ熟語についての疑問を書くことにする。大の字考、である。

まず、「大」をどう読むのか。この字を含んだ熟語の読みを考えてみたい。つまり、「大」を、音読み¹で「ダイ」と読むのか、訓読み²で「オオ」と読むのか。

最近、マスコミに何度も登場する「四川大地震」。「しせんおおじしん」と云う読み方に、ようやく馴れてはきたのだが、なぜ、「しせんだいじしん」ではないのだろうか？阪神・淡路大震災や関東大震災は、「だいしんさい」と読むのだから、「だいじしん」だろうと思っていたのだが、NHKも民放のテレビ、ラジオでも、「しせんおおじしん」。

漢字の「重箱読み³」とは、熟語の前半を音読、後半を訓読する場合を指す。しかし、「おおじしん」の場合は、逆に、先頭が訓読、後が音読となっているので、「湯桶読み⁴」と呼ばれる読み方と思われるが、何れにしても、座りが悪い。

もちろん、新聞で読むと全く気付くことはない音声表現の問題。テレビなら、映像に気がいくと云うこともあるが、ラジオで聞くと、妙に引っかかる表現なのである。

最近出たばかりの「広辞苑第六版」を引いてみると、「おおじしん」と「だいじしん」ともに別々の言葉として存在し、その意味は、微妙に違うらしい。

- おお - じしん【大地震】 広域にわたり被害の大きい地震。また、ゆれの大きな地震。
- だい - じしん【大地震】 マグニチュード7以上の地震。それより小さいものに中・小・微小などの地震がある。

「おおじしん」は一般的な表現で、「だいじしん」の方が専門的な言い方であることはわかるが、なぜ今回の四川大地震が、「おおじしん」なのかは、判然としないのである。

二つ目の引っ掛かり。NHKはなぜ、アメリカのプロ野球「Major League」のことを、「大(だい)リーグ」と呼ぶのだろうか。

¹漢字を音で読むこと。音読み。「漢文を一する」[明鏡国語辞典]

²漢字をその意味に当てた日本語の読み方で読むこと。「春」を「はる」、「夏」を「なつ」と読むなど。訓読み[明鏡国語辞典]

³「重箱」の読みのように、漢字二字以上からなる熟語で、上の字を音、下の字を訓で読む読み方。「台所(だいどころ)」「献立(こんだて)」「懐中物(かいちゅうもの)」などの類。[明鏡国語辞典]

⁴二字漢字の熟語を、上の字は訓で、下の字は音で読むこと。また、その読み方。「身分(みぶん)」「消印(けしいん)」「野宿(のじゅく)」などの類。⇔重箱読み ◇「ゆ」は「湯」の訓読み、「とう」は「桶」

NHK のラジオ、テレビとも、この表現で統一が図られているようで、「まず、大リーグ情報から・・・」などのように使われる。これは NHK に限定された物言いのようで、民放では聞いた記憶がない。ちなみに、民放ではテレビもラジオも、「メジャー・リーグ」と云う表現が使われている。

「広辞苑第六版」で、「大リーグ」、「メジャー・リーグ」を調べてみると、

- だい - リーグ 【大リーグ】 (major league) アメリカ二大プロ野球リーグのこと。アメリカン - リーグとナショナル - リーグをいう。メジャー - リーグ。
- メジャー - リーグ 【Major League】 → (→) 大リーグに同じ。

となっていて、両方とも意味は同じ。しかし、アメリカのプロ野球に「大」の字をつけて呼んでしまうと、「中リーグ」とか、「小リーグ」とか云う言葉の連想が浮かんで、日本のプロ野球に寂しい風が吹くような気がしてならない。そうでなくても、近頃のスポーツ・ニュースで「大リーグ情報」の後に、「プロ野球情報」として伝えられる日本球界の報道には、格落ち感が漂っている。それに、「大リーグ」も「プロ」であるにも関わらず、日本の職業野球のみが、「プロ野球」と呼ばれることも、いかなものか。

「メジャー・リーグ」と云うと、もちろん、「マイナー・リーグ」と云う言葉も頭に浮かんでくるのだが、「マイナー」に対して、「大」に対する「小」ほどの明白な語感が、日本語の中にあるとは思えない。文字通り「メジャー・リーグ」で、どうしていけないのか？

カタカナによる安易な外来語の国語化を許さない、と云う「国営放送」としての NHK の立場もあるのだろう。しかし、日本語による表現にこだわって、Major League を敢えて「大リーグ」と訳す NHK の言語感覚には、かなり違和感を覚えるのである。

ついでに、野球用語で気になっていることを挙げると、プロ野球のチーム名である。例えば、「阪神タイガース」。なぜ、「タイガーズ」じゃないのか？英語として考えれば、Tigers は、/taɪgərz/だから、「ス」じゃなくて、「ズ」なのだが、「ス」の方が、日本語として発音し易いと云う事情か。

球団名の由来は「現代用語の基礎知識 2003 年版」によると：

◆タイガース (TIGERS) [プロ野球球団ニックネーム事典]

【大阪 1935～39 年、大阪 46～60 年、阪神 61 年～】甲子園球場をもつ阪神電鉄は 1935 年 12 月に球団を創設。ニックネームは社員から募集し、アメリカ大リーグのデトロイト・タイガースを意識し命名。デトロイトも甲子園周辺の阪神工業地帯も同じ大工業地帯。「東京がニューヨークのジャイアンツなら、こっちはデトロイト」というワケだ。[現代用語の基礎知識 2003]

1935 年では、単語の語尾にある/z/音が、日本語の音声表現の中に、充分定着していなかったと考えられる。むしろ、日本語も時代と共に変化しているのである。戦後の 1947 年創設の「中日ドラゴンズ」は、「ズ」だし、その他の戦後生まれの球団も、「ライオンズ(1951 年)」「ファイターズ(1971 年)」など、英語に準拠した音声表現のカタカナ表記となっている。

の音読みであることから。[明鏡国語辞典]

「大リーグ」の例も挙げると、最近、松井秀喜選手の活躍で報道されることの多い「New York Yankees⁵」は、日本のテレビ、ラジオでは、「ヤンキース」と発音される。1913 年以來と云う伝統ある球団名で、日本に紹介されたのも戦前だからであろう。一方、イチローの所属する「Seattle Mariners⁶」は、球団創設も 1977 年と新しく、カタカナ表記も、「シアトル・マリナース」ではなく「マリナーズ」となっている。

三つ目の「大の字」疑問は、「大阪」に関するもの。と云って、ラジオでの「大阪」の発音がおかしいとか云う訳では無論ない。

どうやら、中国人は、「大阪」を「ダーバン」と発音しているらしい。つまり、漢字の中国語読み。日本語読みでは、「ダイレン」となる港町「大連」が、中国語読みでは「ダーリエン」となることを考えれば、「大阪」が「ダーバン」となることは、然もありなん。東京が「トンチン」なのは、「南京」が「ナンジン」であることから分かる。文字が共通で、発音が異なるから起こる事情である。

しかし、韓国や北朝鮮の人名、地名がテレビ・ラジオで報道される場合、最近では現地読みで発音されている。例えば、金正日は、「キム・ジョンイル」。「キン・セイジツ」とは発音されない。同様に、「金大中」は「キム・デジュン」、「大邱⁷」は「テグ」なのである。

一方、中国の地名や人名は、一部を除き、日本語発音。例えば、「四川大地震」の「四川⁸」は、常に「シセン」と発音され、現地語読みに近い「スーチュワン (Sichuan)」ではない。

漢字は同じなのだから、日本語読みの方が便利と云う考えも分からないではないが、「大阪」＝「ダーバン」の例でも分かる通り、これでは音声表現による相互理解は図れない。それに、グローバル語化している英語ではどうかと云うと、漢字などを介さない訳であるから、四川のローマ字表記

⁵ ◆ヤンキース(New York Yankees, ア東地区) [メジャーリーグの話をしよう]

1903 年にボルティモアから移転し「Highlanders」を名乗り、13 年から南北戦争時の北軍を意味する現在の愛称に。20 年にベーブ・ルースを獲得し、翌年初のリーグ優勝。23 年に当時画期的な収容能力 6 万 2000 人を誇る本拠地ヤンキースタジアムを建設し、最初の世界に輝いた。リーグ優勝 38 回、世界一 26 回はともにリーグ最多。98 年から 2000 年にかけても 3 年連続世界一を達成。[現代用語の基礎知識 2003]

⁶ ◆マリナーズ(Seattle Mariners, ア西地区) [メジャーリーグの話をしよう]

1977 年誕生。港湾都市シアトルにちなみ「水夫」を愛称に。ケン・グリフィー Jr.、アレックス・ロドリゲス、ランディ・ジョンソンら投打の主力が揃った 95 年に初の地区優勝。同年、2000 年に優勝決定戦に進出するが敗退。01 年、新加入のイチロー、2 年目の佐々木らの活躍で、年間 117 勝のメジャータイ記録地区優勝を遂げた。本拠地は 99 年開場のセーフコフィールド。

[現代用語の基礎知識 2002 年版]

⁷テグ【大邱】(Taegu) 韓国慶尚北道南部、大邱平野の中心にある都市。道庁所在地。政治・交通・商工業の中心地。朝鮮三大市場の一。人口 225 万 5 千(1995)。

[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁸ しせん【四川】(Sichuan) 中国の南西部にある省。長江上流の諸支流にまたがる地。省都は成都。面積約 49 万平方キロメートル。別称、蜀・巴蜀。略称は川。漢族のほか、苗ミャオ族・チベット族などの少数民族が居住。古来「天府の国」と呼ばれ、地味肥え、天然資源に富む。[株式会社岩波書店 広辞苑

(Sichuan)、現地語読みに近い発音となっている。

この点は、実は、日本人の英語によるコミュニケーションの難しさを助長する要素ともなっている。英語で「シセン」と云っても、分かるのは日本人だけ。同じことは、英語で「モウ・タクトウ (毛沢東)」「コ・キントウ (胡錦濤)」と云っても、ポカンとされるだけで、中国語読みに近い「マオ・ツオトン」とか「フー・ジンタオ」と云わないといけないこと。中国人が「ダーバン」と云っても、中国人以外誰も、「大阪」のことだとは思わないことと同じである。



ラジオの言葉遣いで、他にも「大の字」がらみで、気になっているものに、「大自然⁹」がある。「大自然の恵み」などと使われるが、それでは、「小自然」はあるのかと思ってしまう。

NHKのラジオが多用するクリシェ(Cliché)¹⁰の一つに過ぎなくて、そして、このマスコミのClichéについては、いつか取り上げようと思っているのだが、採れたばかりの京筍を賞味する観光客を、「大自然の恵みに舌つづみを打って」などと表現されると、長岡京¹¹のどこが、大自然やねんと気になってしかたがない。

車で通勤中ラジオを聞きながら、いろいろと気になったことを、「大の字」がらみで並べてみた。読者諸氏のご高説を待つ。

それにしても、気になり始めると、とても気になるのが、「ラジオの言葉遣い」なのである。決して暇つぶしどころか、言葉を教えるものの、嗜みのひとつなのかも知れない。(Saturday, June 14, 2008)

第六版]

⁹だい - しぜん 【大自然】 大いなる自然。偉大な自然。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

¹⁰陳腐な) 決り文句, (使い古された) 常套 (じょうとう) 語句, 紋切り型

[プチ・ロワイヤル仏和 (第3版)・和仏 (第2版) 辞典株式会社旺文社]

¹¹桓武天皇の初めての都。784年(延暦3)平城京から移ったが、遷都を首唱した藤原種継が暗殺されたりしたため、794年平安京に移った。宮域の中心は京都府向日むこう市にあり、長岡京市・京都市・乙訓おとくに郡大山崎町まで広がっていた。ながおかのみやこ。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

教育支援事業 — CamTESOL 2009 に向けて

塚本美紀



プノンペンの小学校

「8月に来るの？ 私は夏休みじゃないけど、心配しないで。お休みをとって案内するからね！」
CamTESOLに参加した際知り合った、プノンペンの英語教師 Sokhom さんからのメールである。彼女は、オーストラリア政府から援助を受けている最新の設備を誇る英語学校である ACE(Australian Centre for Education)で働いている。CamTESOLの翌月に結婚し、職場では昇進を果たし、環境が変わって忙しいはずなのに、いつも丁寧に返信をくれる。新しいことを学ぶのに積極的な20代の女性である。

2月のカンボジアツアーは、短い滞在だったが密度の濃いもので、幸い Sokhom のように協力的な人にも出会えた。また、いくつかの学校を見学したり、現地の英語の教員と話をしたりし、カンボジアの教育事情の一端を垣間見ることができた。同時に CamTESOL で発表すること自体が、参加者にとっての professional development につながることを実感した。しかしながら、e-dream-s が行おうとしている教育支援事業のかたちが見えてきたわけではない。そこで、以下のことを提案したいと思う。



結婚式のときのソコン

(1) CamTESOL 2009への参加(2009年2月)

CamTESOL 2009は2月21日(土)と22日(日)に実施される。e-dream-sのCamTESOLツアーは、2月19日(木)深夜に出発し23日(月)早朝に帰国する予定である。時期的に厳しいときではあるが、都合のつく方は、ぜひ参加されることをお勧めする。8月に募集を開始し、9月中旬に締め切る予定である。カンボジアの教育関係者との関係を深め、e-dream-sの教育支援のかたちをつくっていくプロセスにぜひ、ご参加を！

(2) Ms. Sokhom Leang のアクロス冬合宿への招待 (2009年1月)

教育支援を行っていくには、現地の様子を知ることが大切である。そこで、2009年1月4日から6日に京都で行われるアクロス冬合宿に Sokhom さんを招待することになった。カンボジアの教育事情、英語教育についてなどを話してもらおう予定だ。Sokhom には、前もってカンボジアの英語教師を対象にいくつかリサーチしてもらい、それに基づいて話をしてもらおうつもりである。冬合宿をお楽しみに！

(3) 「CamTESOL 2009 先取りツアー！」の実施 (2008年8月)



プノンペン市内

そこで、その準備のためにも今年の8月にカンボジアに行くことにした。Sokhom に会って、冬合宿での講演の打ち合わせをしたり、現地の英語学校を視察したり、英語教員とミーティングを行ったりできればと思っている。CamTESOL の時は、時期的に長く滞在することはできないが、夏であれば少し時間がとれるので、何か他にも、例えば生徒同士の交流に結びつくことができないだろうかとも考えている。

CamTESOL 2009 がより実り多いものになるために、準備をしてきたいと思っている。近日中に日程を決め、メールで募集したいと思っている。CamTESOL への参加を検討している方も、CamTESOL への参加が難しい方も、ふるってご参加を！CamTESOL 2009 を先取りしましょう！

Sokhom の幼馴染で、私たちの CamTESOL 発表を影で助けてくれた Kagnarith が、アリゾナ州立大学の大学院に留学するために夏に渡米する。アリゾナに行く前にニューヨークで研修を受けるそうだが、そのニューヨークについて、「僕の夢の街にもうじき行けると思うと、わくわくしてくる！」と言う。一方 Sokhom は、アクロス冬合宿への参加が初めての海外旅行であり、早速王立プノンペン大学が提供する日本語教室に通うことにしたそうだ。「こんなに素晴らしい機会を私に与えてくれて、ありがとう！」と言う。カンボジアの将来を担うであろう二人の若者の純粋な姿を前にして、私も少し熱くなってきた。ぜひ、皆さんも一緒に！

ECAP'08 in Korea 追加募集

岡崎節子

ECAP'08 in Korea への参加申込はもうなさいましたか？迷っていらっしゃる方、まだ間に合います。

ECAP'08 は先月実施要項を発表し5月末締めきりで参加者を募集しましたが、借り押さえした航空機の座席数にまだまだ余裕がありますので、6月22日まで募集を延期します。

昨年の ECAP'08 in Tokyo に続き、今年は韓国の中学生を対象に日韓異文化理解をテーマに韓国の先生およびネイティブスピーカーとティームティーチを行うのがメインプログラムです。昨年は、岡田さんを始め東京メンバーの努力で多数の中学生が募集に応じて集まってくれました。今年、韓国では ECAP のために中学生を募集するのではなく、昨年来日した Noh さんが運営委員の一人であるソウル市立の English Village で、1 週間の宿泊英語キャンプにやってきた中学生に授業を行います。

近年の韓国の英語教育熱については、すでに e-dream-s 通信や、ACROSS の機関誌 “NEWS A” で紹介されていますが、まさにその最先端の English Village で授業をおこなうわけですから。English Village とはどのようなものか、あなたの目で確かめてください。韓国の ECAP'08 参加メンバーはこれまでの ECAP 経験者が中心となる様子です。Team-teaching でも多めに刺激を受ける事でしょう。日本の文化をどのように韓国の生徒に教えるかアイデアを考えるのも楽しい事です。

もちろん、韓国をより深く知るために、ホームステイやフィールドワークもあります。今回は ECAP 初心者の方も参加しやすい内容です。ECAP は今後さらに version up して新しい方向を目指してゆくことが、先日の理事会で話題になりました。まだ参加していない方、今度は自分が考えたアイデアで授業をしてみたいという方は、今がチャンスです。いろいろ調整して、ぜひ参加しましょう。

付記

ソウル英語センター Gapyeong English Villageについて

韓国では、これまでも半官半民の English Village が各地にできており、まるで英語圏の国に行ったように、子供たちが英語での生活体験をする場を提供して話題になっています。英語村をめぐる韓国の英語教育事情については、下記サイトに詳しく紹介されていますので、ぜひ読んでください。

<http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/jimusyo/220SEL/index.html>

今回 ECAP2008 の会場となる Gapyeong English Village は、ソウル市教育委員会 Seoul Metropolitan Office of Education (SMOE) が直接運営し、韓国で初めての 100% 公立の英語村として注目を集めています。ソウルから車で1時間半の山間部で、4階建て2棟の中に宿泊設備と各教室があり、屋外には広い運動場や野外ステージも備えた、野外活動センターのような雰囲気です。

ソウル市内の小中学校で NET のいない学校を対象に、月曜日から金曜日まで4泊5日のプログラムで、5年生または7年生を学校単位で受け入れます。受け入れ人数は一回120人で、12人ずつ10班に分かれて授業をおこないます。月曜日はオリエンテーション、その後毎日50分6時限授業で、金曜1限までに17種類の授業を各班がローテーションで一回ずつ受けます。夜は日替わりプログラムがあり、木曜の夜は各グループのプレゼンテーションがあります。

授業は14人いる NET が交代で担当します。5年生の17種類の授業は、Art, Cooking, Bank, Music, Dance, Broadcasting, Science, Computer, Drama, Western culture, Korean culture, Mart, Library, Hospital,

Restaurant, Game, Pergola となっており、simulation,または immersionによる英語を使った授業が行われます。

生徒の英語村と同時に、約50人の小学校教員のトレーニングも行われています。小学校では担任が英語も教える事になっており、そのための長期研修です。研修棟には一人一台ずつパソコンの完備した部屋があり、英語村で行うような授業のテキストとマニュアルが山高く積まれていました。ECAP期間中も研修は行われているようです。

このような場所を舞台に、ECAPでは7年生に日本文化を伝える授業を実施します。

縮まる距離

岡田かおる

6月7日土曜日、午後、勤務先の高校1年生の保護者会を終え、学年の役員の保護者と担任団の懇親会に顔を出してから、新横浜発21時10分の新大阪行きの新幹線に乗り込んだ。遅れてではあるが、e-dream-sの理事会の2日目に参加するためである。夜遅くだから、自由席だって余裕で座れるだろうと予想していたが、ほとんど席が埋まっていた。何とか3人がけの座席の真ん中に落ち着くことができ、周りを見ると、仕事帰りか単身先から帰宅するのだろうか、身軽な格好の人が多く、こんな時間に東京から大阪に移動する人が結構いるんだなと、少し意外に思った。

ACROSSに入会した10年ほど前は大阪に行くのはとても遠くに行く感じがした。当時、既に「のぞみ」も走っていたはずだから、今と所要時間は変わらないのだけれど。e-dream-sの理事会に参加するようになり、だんだんと大阪が近くなってきた気がする。行き来をすることに慣れてきたのももちろんあるが、私自身が理事会に参加することを楽しみにするようになったことが大きい。

今年のこの時期の理事会が強く印象に残っている。アジアの教育支援に着手しようということで、塚本理事が調査結果を報告し、これからの可能性について話し合った。思いつくことを出していき、そのうち話は大きく広がり、壮大なプロジェクトへと話は飛んでいった。具体的にはどんな発言があったのか、どんなアイデアが出たのか記憶していないのが残念なのだが、発想がどんどん広がり、こんなことやれたら面白いじゃないか、あんなことも、と夢が膨らんでいく話し合いの様子に、どんなことも夢が先になれば、実現することはあり得ないのだと強く感じた。それから僅か半年後に、カンボジアのTESOL会議で発表をしているとは、その時は誰も思っていなかった。けれどあっという間に塚本理事を中心に話を進め、それを実現してしまった。本当に驚くばかりだ。

理事のひとりとして驚いているばかりではいけない。教育支援事業は始まったばかり。これまでもe-dream-sは自分たちで人とのつながりを作り、自分たちの考えたことを形にしてきた。会の発展にはひとりひとりの会員の知恵と行動が欠かせない。私も微力ながら少しでも役に立つように努めたいと思う。今回の理事会も参加しないとe-dream-sの進化についていけなくなると思い、半日ではあったが参加した。東京の会員に様子を伝え、一緒にe-dream-sの活動について考える機会を作っていきたいと思う。

現代社会の三種の神器

塚本美紀



「毎日がこんな授業だったらいいのに！」
サンフランシスコ州立大学の大学院に留学中の山田理事に行ってもらったテレビ会議授業の後、生徒が言った台詞である。準備した甲斐があった、と嬉しい気持ちになったものの、じゃあ普段の私の授業はどうかの、とちょっと複雑な気持ちでもある。とはいえ、生徒が新しい経験をして、活き活

きとした表情をしているのを見るのは、この仕事をしていて良かったと思う瞬間である。

授業では、山田理事とアメリカ人のお友達のDさんが、アメリカの大学やサンフランシスコの街について、時に生徒に質問を投げかけたり、生徒からの質問を受け付けたりしながら行われた。テレビ電話として使える Skype という無料で配布されているソフトを利用し、インターネットを通して行われた授業である。60 分の間、一度回線が途切れたものの、それ以外は映像も音声も問題はなく、初めての経験に生徒はスクリーンに釘付けになっていた。すべて英語で行われたが、さすが山田理事、生徒が理解できてなさそうだと判断すると、すぐにわかりやすく言い直してくれて、生徒の注意が途切れることはなかった。

授業の後、一人の女子生徒が私の所にやってきて、「先生、今日は英語で質問できなくて、ごめんなさい。本当は、サンフランシスコの先生に英語で質問しようと思ったんですけど、、、いざ話そうと思ったら、頭の中が真っ白になって、何も言えませんでした。」と言った。彼女は、次に英語を話す機会がきたら、きっと今回よりも勇気をだすことができると思う。



今回の授業が実現できたのは、まずは英語のお陰である。山田理事は日本語を話す、アメリカ人のDさんとは、英語がなければコミュニケーションをとることはできない。そもそも、サンフランシスコとつないで授業をしようなんて思いつかない。次の立役者はITである。インターネットのお陰で、事前の準備から、当日のリアルタイムの映像と音声を通しての授業までが、実に簡単に実現した。そして、最後になるが一番大切なのは、人のネットワークだ。英語とITというインフラが揃って

も、一緒にやってくれる面白い人がいなければ、楽しいことは何も起こらない。山田理事が気軽に引き受けてくださり、その上そのネットワークを通じてお友達のDさんも巻き込んでくださったお陰で、生徒が夢中になる授業が実現できたのだ。英語とITとネットワーク、この三つの神器を常に磨いて、もっと面白いことをやりたいと思う。

日本の高校生にサンフランシスコを伝える Skype 体験

理事 山田昌子



6月7日(土)昨日から e-dream-s 理事会が大阪で開かれている。正確に言うと、日本時間で7日の午後から8日の午前中にかけて、土日を返上しての会議。私自身アメリカ在住の理事として何かしたいと考えているものの、力不足で何も形になっていないのが心苦しい。

とはいえ、今回、Skype を使って、理事会に参加されている方々とお目にかかれる機会をつくっていただいた。次々に画面に登場される理事の方々は、日本にいる時は当たり前のように始終顔を合せ、共に ACROSS の発音訓練をしたり、e-dream-s の様々な海外イベントを一緒に行って来た面々。が、私がサンフランシスコ(以後、SF)に来たため、お目にかかれる機会はほとんどない。あまりにもなつかしくて、正直言って目頭が熱くなってきた。たった10分くらいの短いコミュニケーションだったが、太平洋を隔てお顔を見ながらお話ができるなんて、すごい時代になったものだと感激!

Skype と言えば、もうひとつ「すごい時代になった」と感じるものがあつた。

5月22日(木)、塚本理事と数週間準備を進めて来た、日本の高校生と英語で話す、Skype体験12をした。予定の午後6時30分13よりもずっと早い5時40分から、language partnerのアメリカ人Dさんと私はスタンバイ。うまくいくか塚本理事たちと実験をした時は夜だったけれど、この時間はまだ外が明るく、光の関係でパソコンを置く場所を変えたり四苦八苦しなう予定時間を首を長くして待った。

その時間が来ると、教壇に立つような、心地よい緊張感が蘇って来た。一応スクリプトは作っていたが、(多くの授業が授業案を作ってもそれに固守しないように)最初の段階からそんなものはどっかに行ってしまった。久しぶりの授業、日本の生徒、私はなんだか興奮気味。まさかアメリカから日本の高校生と話ができるなんて、夢にも思わなかった。やはりすごい時代になったものだ。

でも、日本の教壇に立つのと大きく違う点は、パソコンのスクリーンは小さすぎて、生徒の反応がよく見えないことだった。Skype はクリアに教室のムードを伝えてくれていたが、ひとりひとりの生徒の表情がモザイク状になりはっきり見えないので、さすがに困った。自分の話している英語が彼らに伝わっているのか、速すぎるのか、わかりにくいのか、笑顔や困った顔が見えない。また、技術が進んでいるとはいえ、音声を発してから向こうに届くまで1秒程の差があるので、パッパッと言葉のキャッチボールができない。話が乗って来るとついそれを忘れてどんどん話してしまい、気づいたら「あれ?通じていないのかな?」と首を傾げることもしばしば。お恥ずかしいことながら、まだテレビ会

¹² Skypeを使って、サンフランシスコから塚本理事が勤務する高校の生徒たちと英語で話し、英語学習に役立てようというプロジェクト。

¹³ 日本時間では、翌日の午前10時30分。

議に慣れないまま、試行錯誤をしながら進めたというのが実際のところ。でも、何故だか、やればやる程もっといい状況に持っていきたくちやと必死になる。やはり私は教師なんだ！

話をしたのは、日本と SF の相違（日米の大学の違い、SF の観光地等）。生徒の反応がわからないのでこれらの話題が適していたのか、適していなかったかわからないが、Dさんは、私の住むサンセット地域・サンフランシスコ州立大学・SF 観光スポットの写真 17 枚を用意し、塚本理事に PowerPoint を作っていただいたので、生徒たちにはわかりやすかったのではないかと。何人かの生徒が日本語でも反応して質問してくれたのは、本当にうれしかった！

私自身、あまりにアメリカの教室に慣れ過ぎ、日本の高校生が自分からどんどん意見を言わない、個人的には答えたくても、文化的に答えにくい土壌があるのを忘れていたのも反省材料。後で聞いたのだが、生徒が大変緊張していたようで、和らげてあげることができず、力不足を感じている。

でも、どんなテーマで、どんな話し方をしたら生徒によくわかってもらえるかという点では、教師にとって大変勉強になるプロジェクトだと実感した。欲を言えば、生徒にもう少し事前準備をさせ、当日英語で話さなければと思わせる状況を作り、こちらのコンビネーションも立て直し、再度機会がいただけるとうれしい。話すのが当たり前の社会と、話さずにすむ社会のギャップをどう埋めればいいのか、それも大きな課題。これは、ふたつの文化をよく知っている教師だからこそできる仕事だと思う！

約束の 1 時間がたち Skype 体験終了後、現場の塚本理事に尻拭いをしていただいているにもかかわらず、Dさんと私は、私のにとっておきの白ワインで乾杯¹⁴。彼女は翌朝最後の春学期の期末試験があったが、それでも大きなプロジェクトが終わり、二人共うれしく、気がつけばボトル 1 本開けていた。



1 年前 ECAP 東京の準備で忙しくしていたのがもうずっと前のことに思える。e-dream-s がとどまらず、ECAP2008 の準備、CamTESOL2009 カンボジア、教育支援へとどんどん進化していくからかもしれない。ポーっとしていると置いてきぼりになりそうだ。（岡田）

¹⁴不謹慎に聞こえるかもしれませんが、時差の関係です。お許しください！終わった時は、SFは既に午後 7 時半を過ぎ、二人共お腹はペコペコでした！